

研究
主題

夢をもち たくましく しなやかに生きる 子どもの育成

～自己の生き方を見つめ、協働しながら深めるキャリア教育の推進～



町田市教育委員会教育長 小池 慎一郎

町田市立小中一貫ゆくのき学園は、2023年度から2024年度までの2年間にわたり、町田市教育委員会研究指定校として、研究主題を「夢をもち たくましく しなやかに生きる子どもの育成～自己の生き方を見つめ、協働しながら深めるキャリア教育の推進～」と設定し、熱心に研究を進めてこられました。この度、その成果を研究紀要としてまとめ、発表されますことを心よりお慶び申し上げます。

本校の研究では、キャリア教育で育成すべき力である4つの基礎的・汎用的能力のうち、「自己理解、自己管理能力」に焦点を当て、小中一貫校の利点である9年間を見通した系統的な実践を積み重ねてこられました。この取組は、「町田市教育プラン24-28」の基本方針Ⅰ「未来を切り拓くために生きる力を育む」ことにつながる研究であると考えております。本校の研究の成果を、校種に関わらず参考にしていただき、キャリア教育の充実が図られることを期待しております。

結びにあたり、これまで熱意をもって本研究を進めてこられました、鈴木元校長先生をはじめ教職員の皆様のご努力に敬意を表するとともに、本校の研究を温かく支えてくださいました保護者や地域の皆様に厚くお礼を申し上げ、挨拶といたします。

学園長 鈴木 元

「今、なぜキャリア教育が必要なのか？」

本校の研究は、ここから始まりました。これまでの全国学力学習状況調査の結果を分析したところ、小学6年生、中学3年生ともに多くの課題が見られました。一方で、「学ぶことの意義」等については、全国平均を上回り、前向きに捉えている子どもたちが多い状態でした。そのため、知識・技能と言ったいわゆる学力だけでなく、子どもたちの学びに対する前向きな気持ちを大切に、未来を切り拓く力を付けさせたいとの願いが強くなっていきました。

そこで、学びと社会をつなぎ、自身の夢や目標に向かって、前向きに粘り強く最後まであきらめずに取り組む姿勢を身に付けるためには「キャリア教育」が必要だと考え、研究を重ねてきました。

本研究では、キャリア教育の基礎的・汎用的能力のアイコン、キャリア・パスポート（電子版）やスケジュール帳の活用等、様々な取組にチャレンジしてきました。

この研究が、学びと社会をつなぐために悩んでいる先生方、子どもたちの夢を実現させたいと考えている先生方にとって、少しでもご参考になればと思っています。

結びに2年間の本研究の機会をくださった町田市教育委員会の皆様、ご指導・ご助言をくださいましたご関係の先生方に厚く御礼を申し上げます。

〈研究主題及び設定の理由〉

研究
主題

夢をもち たくましく しなやかに生きる 子どもの育成 ～自己の生き方を見つめ、協働しながら深めるキャリア教育の推進～

VUCA(*1)と言われる、変化の激しいこれからの時代を生きる子どもたちには、自ら問いを立て、課題を探究し、他者と協働しながら人生を切り拓いていく力が求められる。これまでの全国学力・学習状況調査等から、本学園の児童・生徒は学力に課題はあるものの、各教科に関する興味や関心は高いことが分かった。各教科での学びの前向きさと自己の将来・社会とのつながりをリンクさせることで、上記の時代を生き抜き、未来を切り拓けるようになるのではないかと考えた。

この仮説の実現に向けて、学校教育目標と関連させ「将来の夢や今年度の目標、1週間先のめあてなど自分にとっての未来を思い描くこと」を「夢をもち」と定義した。そのうえで、自他のよさを生かしながら学習や生活に最後まで粘り強く、調整しながら取り組めるような児童・生徒を育てることを研究主題とした。その推進にあたっては、これまでの研究：ゆくのき協働モデルを継続し、9年間の縦・横のつながりを意識しつつ、特別活動を要とした全教育活動を通して、キャリア教育の充実を図っていくこととした。

2023年度は主にキャリア教育の歴史的経緯や文部科学省の定義、単元学習計画の中でどの場面がキャリア教育に当たるのかといった理論的部分を研究してきた。2024年度は、それらを踏まえて各教科の中でどのように実践していくか、といった実践的部分について研究を進めていくこととした。

(*1)Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguityの頭文字からとった造語で、不確実性が高く将来の予測が困難な状況であること。

〈主題の捉え方〉

夢をもち たくましく しなやかに生きる 子どもの育成

自分の夢や今年度の目標、
1週間先のめあてなど
自分にとっての「未来」を
思い描くこと
学校教育目標
〈夢をもち、学び続ける人〉と関連

たくましさ：
自他のよさを生かしながら、学習や
生活に最後まで粘り強く取り組む
しなやかさ：
自他のよさを生かしながら、学びや
人間関係を調整しながら前に進む

2022年研究：特別活動の視点を継続
ゆくのきの子ども一人一人が主語
→すべての子どもを見取り、価値付
け、支援していく。
→価値付けられる場面や環境を
教師が創り出していく。

小中一貫校でキャリア教育に取り組む→①教師のつながり ②子どものつながり ③保護者・地域のつながりを重視
特に、各教科等での指導をキャリア教育の視点で見直し、

*横のつながり：学年の中で、教科等を横断した見方・考え方→学級担任制のよさ（主に小学校）

*縦のつながり：教科の系統性・専門性を生かす見方・考え方→教科担任制のよさ（主に中学校）

⇒それぞれの「つながり」を大切にし、互いの「つながり」のよさを生かせる、校内研究を目指した。

〈研究組織図〉

* 研究部会：

毎月、校内研究の1～2週間前に開催
・ 次回及び年間の校内研究の確認
・ 部会の進捗状況の確認
研究部が各部会のリーダーを担当

学園長・副校長(小・中)

研究部会

* 毎月の校内研究は、4つの部会が
輪番で分担している。

例) キャリア教育を実践した研究授業
→授業研究部会が主催する。

授業研究部会

- 研究授業・協議会の企画・運営
- 学習指導案の検討

環境部会

- アイコン含む教室掲示・学習環境の整備
- 実践研究のまとめ

振り返り・まとめ部会

- 毎回の振り返り作成
- 研究のまとめ作成

キャリア・パスポート 手帳部会

- それぞれの活用方法の提示
- 活用事例の共有

* キャリア・パスポートは以下カリパスと表記する。

〈 研究構想図 〉

〈 関係法令等 〉

学習指導要領
東京都教育施策大綱
東京都教育ビジョン
(第5次)
町田市教育プラン
24-28

〈 教師の願い 〉

未来が予測困難な時代
見えない課題に対して
挑戦してほしい
教科の枠を超えた学び
方を身に付け、生かせる
ようにしたい

〈 学校教育目標 〉

- (探求) 夢をもち、学び続ける人
- (協働) 自分を大切にし、他をおもいやる人
- (健全) 心も体も健やかな人

〈 児童・生徒の実態 〉

学力の定着は課題
各教科への興味・関心は高い
各教科の学習と社会
や将来とのつながり
を知りたい
全学年単学級ゆえ、
人間関係が固定化

〈 保護者の願い 〉

いじめのない学校生活
豊かな人間関係
卒業後の先を見通し、
自立してほしい

〈 研究主題 〉

**夢をもち
たくましく しなやかに生きる
子どもの育成**
～自己の生き方を見つめ、協働しながら
深めるキャリア教育の推進～

〈 目指す児童・生徒像 〉

- ア 他者のよさを見付け、協力・協働してよりよい人間関係・社会を築こうとする児童・生徒
イ 自分のよさを見付け、自分の役割を果たしたり挑戦したりできる児童・生徒 (重点項目)
ウ 課題を見付け、粘り強く取り組み、協働して最後までやりきる児童・生徒
エ 自分の夢をもち、将来のことを考えることができる児童・生徒

〈 研究仮説 〉

全教育活動を通して、キャリア教育の視点を持ち、9年間を貫く取組を行うことで、目指す児童・生徒像に迫ることができるだろう。

〈 研究主題に迫るための具体的な方策(9年間を貫く取組) 〉



キャリア・パスポートの活用

- 「計画→実行→振り返り→改善」のPDCAサイクルを踏まえたフォーマット作成
→次第に子どもたち自身がサイクルを回す
- 学びを振り返る・次の見通しをもつ
- 教師・保護者の対話的な関わり
- キャリア・パスポートを基に学級会を実施

アイコンを基に学級活動(1)・各教科での実践

- 4つの基礎的・汎用的能力(以下4能力)をゆくのきver.として定義し、アイコン化
→P.6にアイコンを掲載
- 日々の授業をはじめとする全教育活動で活用
→活用できた能力を子どもたち自身で自己認識
できることが1つの到達点

児童会・生徒会の取組

- 小学校の縦割り交流会に中学生が参加
→全ての子どもたちにとって活躍の場を創造
- 中学生が全員、専門委員会に所属
→委員会活動が活発化
- 他地区の中学校との生徒会交流会
→実施後、全校に向けて成果発表会

手帳等の活用

- フォーサイト手帳の活用(2023年度)
対象: 6年生及び7～9年生
→振り返りと見通し、対話的な支援
- 2024年度小学校1年生から中学校3年生
まで手帳(スケジュール帳、フォーサイト手帳)を開発、導入
→小学生から活用できるものへ

〈 2 年間の研究の経緯 〉

2023年度 研究の経緯

回	日付	内容	主となる問い（一緒に考えたこと）
1	4月4日(火)	ガイダンス	キャリア教育ってなんだろう
2	4月26日(水)	講演 本学園長 鈴木 元	キャリア教育の推進で、大切にしたいことは？
3	5月8日(月)	研究主題の共有 育てたい子ども像の検討	1年間(2年間)の研究の見通しをもとう
4	6月20日(火)	カリパスの検討 単元指導計画の見直し・改善	単元指導計画をキャリア教育の視点で見ると、どうなる？
5	7月11日(火)	講演 南第一小学校 新井聡子先生 清水綾香先生	町田市内でキャリア教育先進校から、取組や研究への向き合い方を学ぼう
6	8月30日(水)	カリパスの分析	1～9年のカリパスをみんなで見比べ合おう
7	9月13日(水)	アイコンの共有 指導案検討	4能力をアイコン化→その活用方法を考えよう
8	10月18日(水)	研究授業(小6・社会) 東京音楽大学 関本恵一先生	授業の中でキャリア教育の視点を生かすとは？
9	11月1日(水)	手帳の内容の共有・検討	1～9年の手帳をみんなで見比べ合おう
10	12月13日(水)	それぞれの実践を聴き合う 上越教育大学 山田智之先生	これまでの実践を全員で聴き合おう キャリア教育の実践に向けて悩んでいることは？
11	1月5日(金)	成果・課題をブラッシュアップ	今年度の成果と次年度への課題を出し合おう
12	2月14日(水)	今年度のまとめ次年度に向けて	1年間の歩みや取組をもう一度振り返ろう

2024年度 研究の経緯 【年間講師：上越教育大学 山田智之先生】

回	日付	担	内容	主となる問い（一緒に考えたこと）
1	4月4日(木)	研	ガイダンス	昨年度の方向性や取組を振り返ろう
2	4月24日(水)	研	今年度の研究の方向性を確認	本研究を通して、教師と子どもの成長は？
3	5月13日(月)	授	研究授業(中3・数学)	授業の中でアイコンをどう活用していく？
4	6月18日(火)	キ	カリパス・手帳事例の共有	発達段階に応じた手帳等の支援方法は？
5	7月8日(月)	授	研究授業(小5・総合)	アイコンと4能力を子どもと共有するには？
6	8月29日(木)	環	実践まとめスライドの作成 1	各ブロックの実践をまとめ、共有しよう
7	9月17日(火)	授	研究授業(小4・図工)	アイコンを子ども自身がメタ認知するには？
8	10月10日(木)	環	実践まとめスライドの作成 2	実践をまとめ、組織体で共有しよう
9	11月11日(月)	ま	アンケート分析 成果と課題	教員の意識及び子どもの成長を見取ろう
10	12月12日(木)	ま	実践まとめスライドの作成 3	2年間の成果と課題を明らかにしよう
11	1月7日(火)	研	研究発表会に向けて 1	自分たちの実践を伝える準備をしよう
12	2月12日(水)	研	研究発表会に向けて 2	研究発表に向けて最終確認しよう
13	2月17日(月)	全	研究発表会	2年間の研究を広く伝えたい！
14	3月12日(水)	研	今年度のまとめ	次年度のゆくのき×キャリアの方向性は？

研：研究部 授：授業研究部会 環：環境部会 ま：振り返り・まとめ部会 キ：カリパス・手帳部会

〈ゆくのき学園のキャリア教育理論編〉

？キャリア教育とは、どんな考えなのですか？

H23 中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(以下、キャリア教育答申)では「キャリア教育」とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通じてキャリア発達を促す教育」と定義された。キャリア教育は特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通して実践されるものであり、一人一人の発達や社会人・職業人としての自立を促す視点から、学校教育を構成してするための理念と方向性を示すものである。

その後、H29 学習指導要領 総則編 小学校(中学校)では、

児童(生徒)が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。(その中で、生徒が自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。)とされている。

？キャリア教育の4つの基礎的・汎用的能力とはどんな力ですか？

キャリア教育を通して育成すべき能力は当初「4領域8(12)能力」(*1)が開発された(H14)。それまでは「人生の生き方を指導する」等の抽象度が高い概念のまま提示されていた進路指導から、小学校から高等学校の12年間で育成すべき能力を構造化した「4領域8能力」は大きな成果であった。その後「人間力(内閣府)」「就職基礎能力(厚生労働省)」「社会人基礎力(経済産業省)」「学士力(中教審)」と各界から社会的自立に向けた能力が提唱された。

(*1)『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』H14 国立教育政策研究所生徒指導研究センター

これらを参照にキャリア答申では「仕事に就くこと」に焦点を当てて、基礎的・汎用的能力を「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つに整理した。

これらの能力は包括的概念であり、それぞれが独立したものではなく相互に関連・依存した関係にある。このため、特に順序があるものではなく、すべての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではない。

4能力の詳細及びゆくのき学園でのアイコン化については、P6及び下の2次元コードを参照されたい。



H23 キャリア教育答申
(概要版)



文部科学省
キャリア教育 先生応援ページ
*多くの資料が掲載されています。

？キャリア教育を進めるうえで、大切にしたいことってどんなこと？

一番大切にしたいことは「必ずしも新しい取組を始める必要はない」ということ！まずはこれまでやってきた取組を、キャリア教育における4能力の視点で振り返り、捉え直す。具体的には、年間指導計画をブロック別・学年別で振り返った。その中で「何がキャリア教育にあたるのか」を考えることに一番苦労した。捉え方によっては「この活動は4能力全てに通じる」や「ある能力だけが偏っている」という声もあった。そこで

①4能力の定義を見返すこと ②本学園の目指す児童・生徒像を振り返ること の2点を共通理解した。すると教師がキャリア教育で育てたい資質・能力(コンピテシー)が見えてきた。また逆転の発想で、「この能力を伸ばしたいからこんな活動はどう？」や「年間計画を見通して、この時期にはこの能力を育成できたらいいね」と、教師自身が広い視点をもつ声が協議の中で挙がった。キャリア教育の視点で年間指導計画を捉え直すきっかけとなった。

？小中一貫校でのキャリア教育で重視したことは、なに？

各教科等での指導をキャリア教育の視点で見直した。特に2つのつながり及びその先の未来を意識した。

*横のつながり：学年の中で、教科等を横断した見方・考え方→学級担任制のよさ(主に小学校)

*縦のつながり：教科の系統性・専門性を生かす見方・考え方→教科担任制のよさ(主に中学校)

校内研究では、ブロック別・学年別で協議したり、小中入り混じったグループ編成をしたりして横糸・縦糸をうまく織り交ざるようにした。また校内研究以外でも職員室で、教科のことや行事のこと、キャリア教育のことなど、気軽に話す姿も増えてきた。小中で連携授業を行ったり、乗り入れ指導を行ったりといった取組も充実してきた。

就学前教育

初等中等教育

継続教育・高等教育

小学校

中学校

高等学校
など

この一連の流れが「キャリア教育」

子ども
一人一人の
未来

〈 2 年間の研究の前提 〉

* ゆくのき学園では、主に以下4つの取組を柱として、2年間の研究を実践してきた。

① 4つの基礎的・汎用的能力をアイコン化→目指す児童・生徒像に接続

【4能力をアイコン化した背景】

- ◎ キャリア教育の定義や理論を学ぶ中で、教師と児童生徒が相互に共通理解するために、4能力を、誰もがわかる形で明示する必要があると考えた。(南一小のアイコンも参考にした。)
- 最初は教師の、キャリア教育及び4能力に対する理解を深めるのがメイン
- 次第に、子どもたちにも4能力を身近に感じてもらいたいという思いに変化

アイコンの導入期

研究部でアイコンのデザインを検討
4能力と目指す児童生徒像と紐付け(P.19参照)

全校朝会で校長から全校児童生徒に説明する。

日常の授業の中でアイコンを活用
特に自己申告に伴う授業観察で活用
アイコンは手段。活用が目的化しないように共通理解

校舎内のいたるところに掲示

ゆくのき学園で伸ばしたい4つの力



友達とつながろう

人間関係形成・社会形成能力



自分を知らう

自己理解・自己管理能力



自分で考えよう

課題対応能力

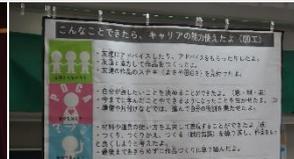


夢や目標をもとう

キャリアプランニング能力



全校朝会で提示



図工で育てたい4能力

学習指導案では、単元計画及び本時の展開にアイコンを配置し、教師の4能力に対する理解を深める。学校HPに実践例を掲載

単元	単元計画	単元計画
1	単元のねらい	単元のねらい
2	単元のねらい	単元のねらい
3	単元のねらい	単元のねらい
4	単元のねらい	単元のねらい
5	単元のねらい	単元のねらい
6	単元のねらい	単元のねらい

② キャリア・パスポートの再構成→子どもの実態に合わせてカスタマイズ

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

【ゆくのき学園でのカリパス活用方法】

町田市教育委員会提示のフォーマットを基に、9年間を見通したフォーマットを作成

① 目標の設定 → ② 活動の実践 → ③ 目標に正対した振り返り → ④ 次のステップに生かす

ア) 各学期の目標

イ) 各学期振り返り

ウ) 各学年全校行事

- 通知表の担任所見欄→カリパスに移行教育相談(三者面談)で活用している
- 学級通信等でも、内容や書き方を紹介
- 保護者にも入力いただいている

ア) 各学期の目標

イ) 1学期・2学期・3学期の振り返り

ウ) 各学年・全校行事のGoogleスプレッドシート

原則：1人一台端末で作成する

低学年は担任が対話しながら入力する

chromebookでカリパスに入力

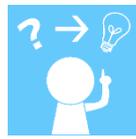




友達と
つながろう



自分を
知ろう



自分で
考えよう



夢や目標を
もとう

③ 9年間を見据えた手帳の活用→ゆくのきから発信する9年間の系統性

町田市教育プラン24-28で重点項目とされている「自己理解・自己管理能力」を本学園でも更に高めるために、9年間を見据えて手帳（スケジュール帳）を導入することとした。

2023年度は、6年生以上を対象に「フォーサイト手帳」を導入し、活用を図った。

2024年度は、1～6年生は低・中・高のブロック別に、子どもたちの実態に応じてオリジナルの手帳のフォーマットを開発し、活用している。（実践事例については各ブロックのページを参照）

【活用目標（ゴールイメージ）】

* 9年生で「予定から逆算して、自分で計画を立てて実行する」を活用のゴールイメージとして、それぞれの発達段階に応じて押さえておきたいポイントを共通理解して、子どもたちを指導・支援していく。

1年、2年

- 予定表を基に、翌日の時間割を合わせることができる。
- 毎日宿題として音読帳を活用することができる。

3年、4年

- 決められた期間の中で、次週の時間割を書くことができる。
- 週の目標を設定し週末に目標に対する振り返りを行うことができる。

5年、6年

- 前週のふり返りを生かして、次の目標を立てることができる。
- 中学校で使用するフォーサイト手帳の形式に慣れる。

7年～9年

- 予定から逆算して自分で計画を立てて実行する。
- 予定を立てた後、自分の進捗状況に応じて予定を調整することができる。

担任を中心に手帳を点検し、個別にコメントしたり、好事例を教室で掲示したり、学級通信で紹介したりするなどして、子ども一人一人に対して積極的に関わり、支援することを続けてきた。

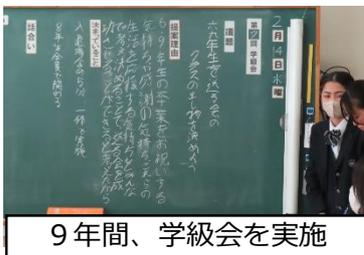
④ 小中一貫校のよさを存分に発揮する特別活動→児童会・生徒会の連携

2022年度の研究を生かし、特別活動（児童会・生徒会の連携や学級会）の継続的な実施に取り組む。

【参考】2022年度 研究主題

豊かな人間関係を構築できる児童・生徒の育成 ～小中連携で取り組む ゆくのき協働モデルの実践～

小中ともに特別活動【学級活動(1)】に視点を当て、折り合いをつける・他者との合意形成を図る経験を通して、豊かな人間関係を構築できる児童・生徒を育成した。



9年間、学級会を実施



1年～9年で縦割り交流活動



中学生全員が専門委員会に加入することに変更



児童会・生徒会が連携して全校集会を企画

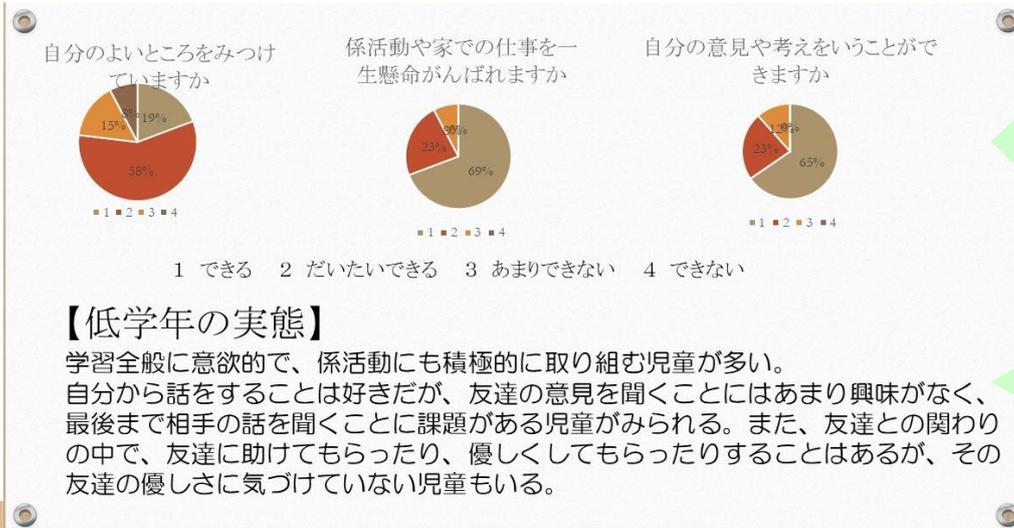


小中であいさつ運動



行事の成果発表会を実施

P.8~P.17は各ブロックの実践から抜粋したものです。



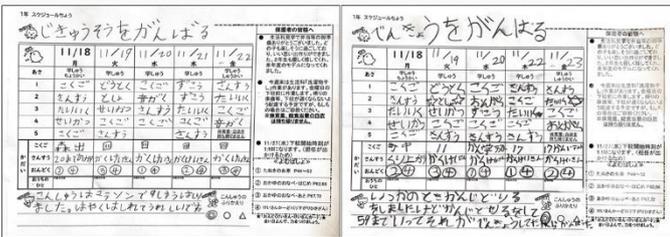
【低学年の実態】

学習全般に意欲的で、係活動にも積極的に取り組む児童が多い。自分から話をするのは好きだが、友達の意見を聞くことにはあまり興味がなく、最後まで相手の話を聞くことに課題がある児童がみられる。また、友達との関わりの中で、友達に助けてもらったり、優しくしてもらったりすることはあるが、その友達の優しさに気づけていない児童もいる。

2024年5月に実施したキャリア教育アンケート（P.19~P.21参照）のうち、自己理解・自己管理能力に関する結果を示しています。

上記アンケートの結果に加え、担任・副担任から見た児童の様子を記載しています。

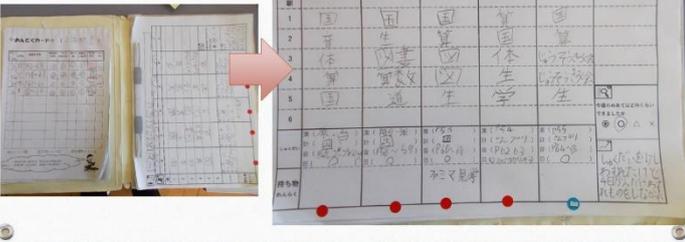
1年生 実践



1・2年生での手帳活用の様子です。自分で時間割を書いたり、宿題を記入したりすることに加え、目標を決め、それに対する振り返りも記入しています。

2年生 実践

こんな感じです☆



2年生 実践

キャリア・パスポートの活用



- 低学年は、振り返りを◎○△の3段階でプルダウンから選択し入力
- 2年生から「ローマ字表」を使用し、ローマ字入力で挑戦！
- 教師・保護者の対話的な関わり

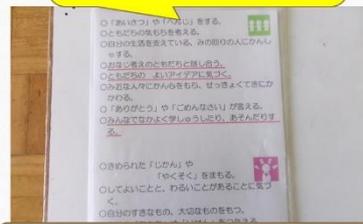
◎
○
△
の
工
夫
点

教員が4能力を意識することで、授業の中で工夫や見通し、振り返りができました。

2年生 実践 各教科共通の取組



一人一人が手元に持ち、振り返りの際に、身についた力を書けるようにする。



小学校キャリア教育の手引き 小学校学習指導要領(平成29年告示)備拠 文部科学省 P94・95

2年生 実践



教室掲示やワークシート・ノートにこんな工夫をしています。

1年生 実践

指導案上でのアイコン活用

- 3 グループで発表準備をする。
 - 自分の好きなことに向き合い、発表する。
 - 発表する前に、自分の好きなことを発表する。
 - 発表する前に「好きなこと」について発表する。
 - 自分の好きなことを発表したり、興味関心をもって友達の好きなことを聞いたりする。
 - 発表者の発表が終わったら、質問や感想を伝える。
- 発表が終わったら、活動が完了したグループに発表順を指示する。
- グループの発表の様子を観察し、全体の場で見えがら良い点を取り上げる。(丁寧な言い方、声の大きさ、姿勢など)
- 全員の発表が終わったら、二日目、三日目と続け、伝える力の定着を図る。
- 相手に伝わるように、行動したことや感動したことについて、話す準備の時間を考える。(思・判・表) (発表・観察)

「展開」では児童に意識させたいアイコンを示した

児童の実態に合わせてアイコンを選択した

学習指導案の本時の中に、アイコンを配置することで、教師が4能力を更に意識できるようになりました。

だんだんと児童にもアイコンが浸透していき、児童自身が、学習単元とアイコンを関連付けることができるようになりました。

1年生 実践

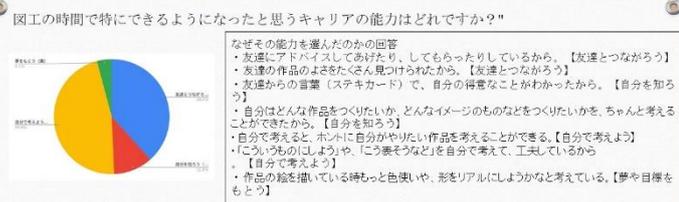
【授業のようす】

この授業ではどのアイコンのことを学習した？



児童が自分でアイコンを選び、選んだ理由を説明する

図画工作科におけるキャリア教育の実態



【図画工作科の実態】

図画工作の授業では、キャリアの4能力も、「できている」「だいたいできている」と答える児童が多かった。また、上記のグラフでは、図画工作の時間で「夢や目標をもとう」の能力を使用していくのが課題なのがわかった。この能力は、教科で行うのは難しく、キャリアパスポートなど学級での活動と絡めて行っていくのが効果的である。「自分を知る」の能力では、自分がつくりたいものをイメージしてから、活動に入ることを指導していく必要がある。「自分で考える」では、作品製作の前に試してみるなど、試行錯誤しながら製作に取り組んでいる姿が見られている。そして、図工の時間では、児童同士が教え合う場面が多く見られ、「友達とつながろう」を意識する児童が多かった。

図画工作科でのキャリア教育の実態です。図工とキャリア教育は親和性が高く、さまざまな実践を行うことができました。

各ブロックの育てたい児童・生徒像をアレンジして、図工バージョンの児童像を作成しました。これを拡大して、図工室に掲示しており、児童はいつでも参照できます。

こんなことできたら、キャリアの能力使えたよ (図工バージョン)

- こんなことできたら、キャリアの能力使えたよ (図工)
- 友達にアドバイスしたり、アドバイスをもらったりしたよ。友達と協力して作品をつくったよ。友達の作品のステキ(よさや面白さ)を見つけたよ。
 - 自分が表したいことを決めることができたよ。(思・判・表)
 - 今までに学んだことやできるようにしたことや生かしたよ。(知)
 - 準備や片付けなどは、進んで自分の役割を果たせたよ。
 - 材料や道具の使い方を工夫して表現することができたよ(技)
 - つくり、つくりかえ、つくる(試行錯誤)を繰り返し、作品をもっと良くしようと考えたよ。
 - 最後まであきらめずに作品づくりに取り組んだよ。
 - 次回、工夫したいこと、やりたいことが考えられたよ。
 - 学んだことやこれから生かしたいことに気付けたよ。
- 具体的にどのようなことができたら、キャリアの4能力を使えたのか児童がわかるようにした。児童は、この表を見ながら、毎授業後の振り返りを行った。

図画工作 実践

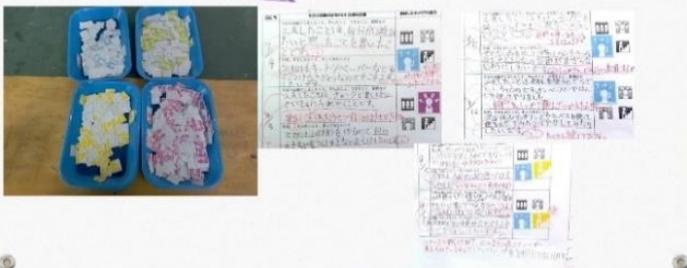
4年「へんてこ山の物語」



アイコンをシール化してワークシートに貼付できるようにしました。児童が自分で4つの中から選ぶ、というのがポイントです。

振り返り時のアイコンの活用

児童は、その日の授業で工夫したこと、学んだこと、できたこと、次回の授業で工夫したいことなどをまとめ、自分が使ったと思うキャリアの能力のシールをワークシートに貼る。



図画工作科におけるキャリア教育の成果と課題

- 【成果】
- 色を塗る前などに試し塗りをし、試行錯誤しながら製作に取り組む児童が増え、児童の問題解決能力が向上した。
 - 自分がつくりたいものをしっかりとイメージして、製作に取り組む児童が増え、児童自身が納得の行く作品をつくれるようになった。
 - 自分の作品の良さを児童が再確認することができ、自己理解につながった。
- 【課題】
- 学んだことをこれからに生かしていく意識付けをすることができず、「キャリアプランニング能力」の向上に課題が残った。キャリアパスポートの使用等、学級と連携を取り、進めていく。
 - 「自己理解」をより深められるように、児童が表現したいことを明確にできるように指導を行う。また、相互鑑賞を多く取り入れ、自分や友達の作品のよさや面白さを感じ取る時間を取る。

【第3学年の結果】



【第4学年の結果】



3年生、4年生における、2024年5月に実施したキャリア教育アンケート（P.19～P.21参照）のうち、自己理解・自己管理能力に関する結果を示しています。中学年ブロックというまとめりですが、成長にともなって、結果も変容してきています。

3年生 実践

【単元名】場面をくらべながら読み、感想を書こう
 「ちいちゃんのかげおくり」

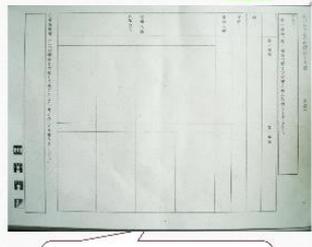
【単元とキャリア教育との関係】

- 【人間関係形成能力】話し合いをしながら自らの意見を正確に伝え合い、自他のよさに気付かせる。
- 【課題対応能力】話し合い活動の前に自分で考える時間を設ける。⇒考える時間の確保

指導案上でのアイコン活用

次	講	めあて
1	2	目標に対して学習の見直しをもち、読書の読み直しを促すことができる。
3	3	二つの場面を読んで登場人物の行動や気持ちを捉え、それらを比べることによって、共通点や相違点を見つけられることができる。
4	4	表紙に書目、場面ごとに関連人物の行動や気持ちの変化について捉えることができる。
6	6	表紙に書目、場面ごとに関連人物の行動や気持ちの変化について捉え、それらをつなげて、通りの様子の変化を捉えることができる。
7	7	登場人物の心情について読みを基に捉え、これまでの場面の変化や読みと読み分けを基に捉え、自分の考えをもちつことができる。
8	8	文章を読み理解した上に基づいて考えをもち、想いを言葉で捉え、感想を言葉で捉えることができる。

単元を見通して、単元指導計画上に1時間に1つ程度アイコンを位置付けることで、育てたい能力が焦点化します。



黒板にアイコンを貼ることで、児童と4能力を共有することにつながりました。

4年生 実践

【単元名】東京の伝統や文化
 東京都に伝わる文化財「府中くらやみまつり」

【単元とキャリア教育との関係】

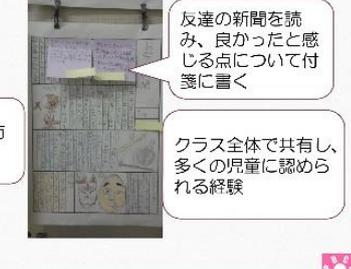
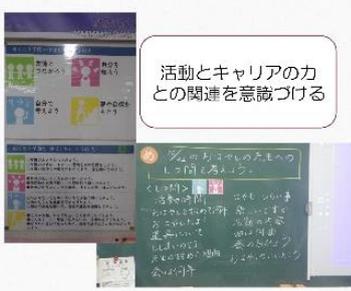
- 【人間関係形成・社会形成能力】「個別」→「小集団」→「クラス全体」の話し合う場の設定
- 【自己理解・自己管理能力】互いの良さを認め合う活動の設定
児童の発言・行動に対する教師の価値づけ
- 【課題対応能力】ICT機器、教科書以外の資料、ゲストティーチャーの活用
- 【キャリアプランニング能力】社会に自分がどう参画していくか考える

指導案上でのアイコン活用

次	講	めあて	指導的配慮	評価
1	1	前回は読みと読み分けを基に、登場人物の行動や気持ちを捉え、それらを比べることによって、共通点や相違点を見つけられることができる。	・「個別」→「小集団」→「クラス全体」の話し合う場の設定 ・ICT機器、教科書以外の資料、ゲストティーチャーの活用	【自己理解・自己管理能力】互いの良さを認め合う活動の設定 児童の発言・行動に対する教師の価値づけ
2	2	登場人物の心情について読みを基に捉え、これまでの場面の変化や読みと読み分けを基に捉え、自分の考えをもちつことができる。	・「個別」→「小集団」→「クラス全体」の話し合う場の設定 ・ICT機器、教科書以外の資料、ゲストティーチャーの活用	【自己理解・自己管理能力】互いの良さを認め合う活動の設定 児童の発言・行動に対する教師の価値づけ
3	3	文章を読み理解した上に基づいて考えをもち、想いを言葉で捉え、感想を言葉で捉えることができる。	・「個別」→「小集団」→「クラス全体」の話し合う場の設定 ・ICT機器、教科書以外の資料、ゲストティーチャーの活用	【自己理解・自己管理能力】互いの良さを認め合う活動の設定 児童の発言・行動に対する教師の価値づけ

「ここがキャリア教育！」と思ったところを4つのアイコンで示す

教師が単元全体で見通しをもって4能力を意識することが大切

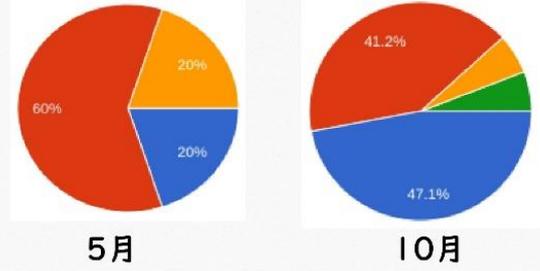


ゲストティーチャーの活用
 児童同士の認め合い、教師の価値づけ

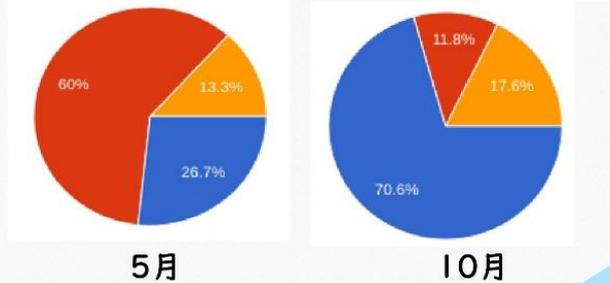
【高学年の実態】

- 5年
- ・興味関心をもつと意欲的に取り組む。
 - ・友達同士の仲はいい。
 - ・計画的に取り組むことが苦手な児童が多い。
 - ・声を掛けないと課題を最後までできない児童が多い。
- 6年
- ・学習全般に対して意欲的で楽しく取り組める。
 - ・友達に対して優しく、素直さもある。
 - ・自分の意志で取り組む力が弱い。(宿題や期限のある課題など)
 - ・最後までやり遂げる力が弱い。

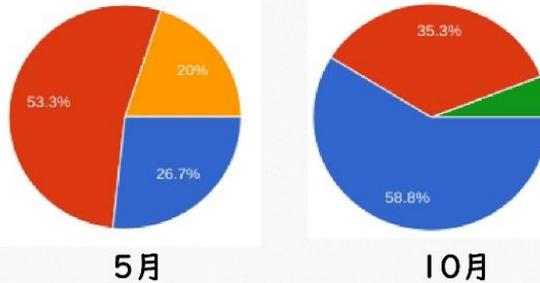
課題に対して**ねほり強く最後まで**取り組むことができますか。



自分とはちがう意見でも理解しようとしていますか。



相手の立場に**た**って考え、意見を言ったり行動したりできますか。



2024年5月、10月に実施したキャリア教育アンケート (P.19~P.21参照) のうち、自己理解・自己管理能力に関する結果を示しています。高学年では、5月と10月の結果を比較し、児童の意識の向上を見取りました。3項目とも肯定的な回答をする児童が増加したことが分かります。

5年生 実践

総合「川上村で農業体験」



事前に質問したいことを話し合い、班毎に手紙に書きました。

2024年7月の研究授業です。川上村での農業体験を4年生に伝える報告会の準備をしています。自分たちが見聞きしたことのうち、何を伝えたら分かりやすいか、グループで話し合っています。

6年生 実践

社会「安土桃山時代」



指導案上でのアイコン活用

ディスカッションで知識を深める



ディスカッションにどう関わっていくか

- ・質問
- ・予想を述べる
- ・解釈を述べる
- ・答えを見つける
- ネット
- 教科書・資料種
- その他

指導案上でのアイコン活用



各班ごとに、農業体験で学んだことを紹介し合おう。

- ・各班ごとに話し合い、何を伝えたいのか話し合う。
- ・班ごとにスライドを作成し、発表の原稿を作る。
- ・発表の練習をして、相手に伝わるか確かめる。
- ・発表会で自分たちが学んだことを伝え合う。
- ・他の班の発表を聞き、情報を共有する。
- ・発表内容のスライドを製本し、いつでも見られるように残す。

2023年10月の研究授業です。天下統一に向けて織田信長が行ったことについて、一人ずつ問いを立てて、授業は進んでいきます。それぞれの問いに対して教科書や資料集を使って調べ、学級全体でディスカッションをして考えを深めていきました。

音楽専科 実践

学習発表会

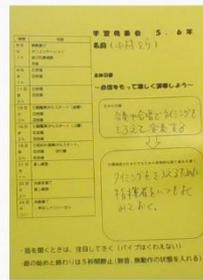


何を意識するかを明確にして練習に取り組む。

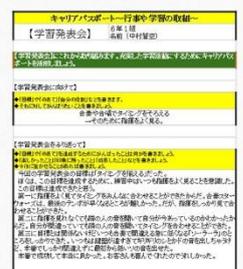
「めあて」「ポイント」を提示。今の自分は何を意識して取り組むべきか導入で考えさせる。

練習中は常に、自分が意識したいポイントを確認できるようにした。

音楽専科



学習シートには目標とTODOを



キャリア・パスポートへ

学習発表会に向けての練習に当たって、「見通し」と「振り返り」を重視しました。学習シートとキャリアパスを連携させたことも、自己理解・自己管理能力の向上につながっています。

高学年 実践

キャリア・パスポートの活用



ねらい
「上手に目標を立てる」「達成に向けて取り組み続ける」

- ①個別最適な観点から、通常3つの目標を設定するところを2つにすることを許可した。
- ②目標設定のポイントがわかるようにプレゼン形式で教師側から講義を行った。
- ③「上手な目標設定」のイメージをもちやすくなるために目標設定一覧を作成した。
- ④目標の一つは「学習」「生活」を入れるようにして、教師が助言、評価できるようにした。

キャリアパスの活用に向けて、高学年では目標設定及び具体的な方策について粘り強く指導しました。以下は具体的な方策の指導資料を掲載しています。

キャリアパス編 ～こんな「目標」や「達成するための手立て」がかけるといいんじゃないかな……って案～

目標	TODO	分割	教師の支援
学期末の漢字テストで90点をとる	毎日漢字下り字を10分取り組む	毎週ある10文字テストで100点を取ったら小目標達成	漢字下り字の小テストを定期的に実施
学期末には「あなは」を英語で表現できる」と先生に言ってもらえるようになる	・朝教師に入る時必ず挨拶をする。 ・自分から挨拶をする。 ・誰にも挨拶をする。	・2週間ごとに自分から挨拶できる日は100点を褒め、1週間ごとに挨拶できる日は80点を褒める。	学期末に1日英語の授業を作成、教師からのフィードバックを記入する。
ノートは8割以上見直しをする。	・めあてを小冊子で読む ・自分分の学習計画を1週間ごとに書く ・見直しを毎日行う	5割見直しを受けたら、振り返りをする。4割以上80%以上は小目標達成	A3サイズの表紙を印刷し、毎朝朝評欄を記入する。
100%の授業で「2週以上」発表し、90%以上で発表する。	・朝の2週を必ず「生活」に書く、発表する。 ・朝の2週を必ず「学習」に書く、発表する。	・2週間ごとに発表できた日には褒め、褒められる。 ・1ヶ月ごとに発表できなかった日は発表できなかった理由を記入し、100%以上で発表する。	・発表計画を印刷、提出。 ・2週間ごとに発表できた日には「目標の振り返り」欄を作る。
100%の授業で、2学期総評40点発表する。	・発言した人数をノートの右上に「正」の字で毎日記録する。	・1ヶ月ごとに10人以上発言できた場合は褒め、10人以上で発表できなかった場合は、10人以上で発表できなかった理由を記入する。	・発表人数を記録、提出。 ・2週間ごとに10人以上で「目標の振り返り」欄を作る。
前週の提出率を90%以上にする。	・朝の2週を必ず「生活」に書く、発表する。 ・朝の2週を必ず「学習」に書く、発表する。 ・宿題を提出したらスケジュール表に色をつける。	1ヶ月ごとに提出率を算出する。90%を目標に達成する。	1週間ごとの提出率を記録し、提出する。

※※正確には、これらも「真の目標」を達成するための手立てである。

成果

- ・目標を設定するだけでなく「達成するために何をやるか」まで考えて目標設定できるようになった。
- ・目標に対する意識が強い児童が増えた。そういった子は学習や生活態度に明るい変化が見られた。

課題

- ・教師側からの声掛けがないと学期の目標を意識し続けることが難しい児童がいた。
- ・底上げが大きな課題。意識することが難しい児童は、あまり変化がなかった。

高学年 実践

スケジュール手帳



「中学生で実践しているフォーサイト手帳」「昨年度の6年生の実践からの反省」を念頭に置き実践。

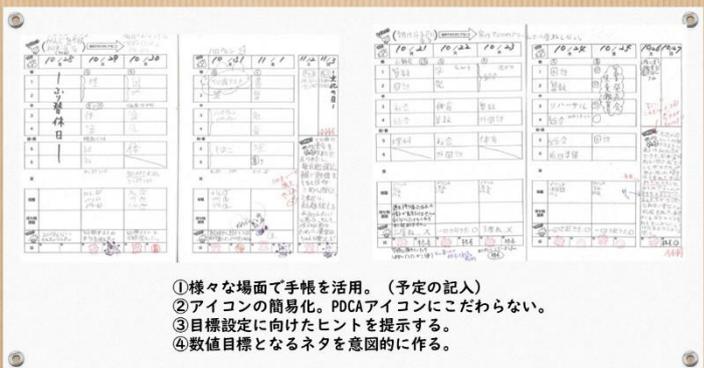
- ・フォーサイト手帳は中学生の生活スタイルを前提とした様式なので、小学生の中には使いにくい児童がいる。
- ・罫線が細かいので、どこを見てよいかわからない児童がいる。
- ・特に発達障がいのある児童には複雑すぎ、意欲につながりにくい。

中学校へのつながりが見える手帳



ねらい
「PDCAサイクルを活用し目標達成経験を積む」「フォーサイト手帳への円滑な移行」

昨年度6年生でフォーサイト手帳を導入して見えてきた成果と課題を踏まえて、高学年のスケジュール帳のフォーマットを作成しました。



- ①様々な場面で手帳を活用。(予定の記入)
- ②アイコンの簡易化。PDCAアイコンにこだわらない。
- ③目標設定に向けたヒントを提示する。
- ④数値目標となるネタを意図的に作る。

スケジュール帳の活用が日常化するように、様々な場面で活用させるようにしました。また教室後方の黒板も、2週間先まで見通せるように変更しました。

自分の長所や短所を理解していますか。



1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

自分の役割を理解し、集団のために貢献・活動することができますか。



自分のよさを発揮し、新しいことに挑戦できますか。

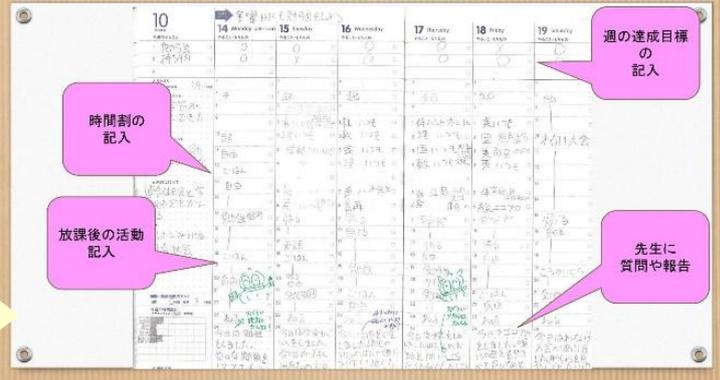
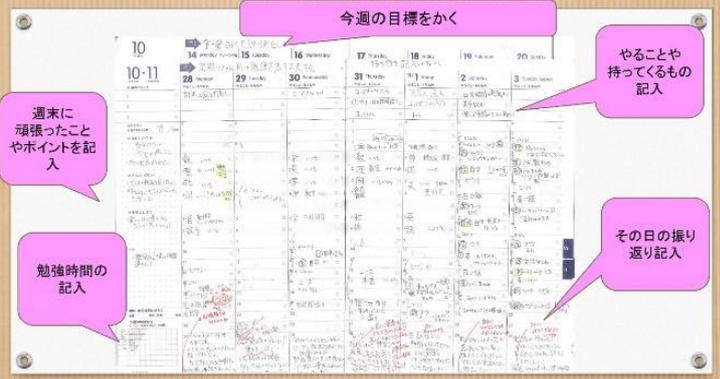


【7年生の実態】

明るく他者にも寛容で集団としての関係性はよい。個々の生徒の自己理解については、十分とはいえず、今後多面的・多角的に考え、客観的に分析する機会を設定する必要がある。また自分の役割に対する責任感をよく育っており自主的に動ける姿が多く見られる。また、自分の力を伸ばしたい意欲が強い生徒が多く、様々なことに挑戦しようとする姿がいろいろな機会に見られる。挑戦のプロセスの中で、うまくいかないことや失敗することがあっても、否定的に捉えず、次に活かそうとする前向きな考え方ができる生徒が多い。一方、一部には、自己の良さに対する自信が十分とはいえず、主体的に挑戦しようとする意欲がなかなか見られない課題もある。

施設一体型小中一貫校とはいえ、中学校入学は生徒にとって大きな転機であり、変化でもあります。その中でも、自分自身については肯定的に捉えている生徒が多いことが分かりました。

7～9年生はフォーサイト手帳を活用しています。年度当初に全学年でガイダンスを行い、活用を図っています。7年生では「自分自身の生活の記録」を重視することとし、指導・支援を行いました。



小学校でのキャリアパスやスケジュール帳の経験を活かし、計画→実行→振り返り（評価）→次へのアクションプランといったPDCAサイクルを生徒が回せるように支援しています。

7年生 実践

キャリア・パスポートの活用

計画→振り返り(評価) →次へのアクションプラン

【2学期】*1学期の振り返りを見返して、反省を生かせる目標にしよう。

- ① 自主学習を定期的にし、授業の予習や復習をする。また、分からないところは先生や友達に聞く。
- ② 委員会で真面目に手を抜かず仕事に向き合う。また、無理をせずに自分の容量にあった仕事の量を選ぶ。
- ③ 毎回たてる目標を達成できるようにレッスンを集中する。チームの皆に足を引っ張らないように自主トレも手を抜かないようにする。

各学期で、①学習、②学校生活、特別活動、③学校外活動の3つを設定することで生活を網羅

立えた目標に対しての自己評価及び次への具体的な計画立て

2学期の目標	達成度	3学期に改善すること
① 自主学習を定期的にし、授業の予習や復習をする。また、分からないところは先生や友達に聞く。	B	自主学習の継続についてまだここからはこのステップで進んでいく必要があるのでもう少し予習や復習をしていく。ノートももう少し整理して授業で活用できるようにしたい。
② 委員会で真面目に手を抜かず仕事に向き合う。また、無理をせずに自分の容量にあった仕事の量を選ぶ。	B	部長を務める中で自分自身も大変な思いをして頑張った。また、3月の選挙と生徒会が重なったときは先は先上から頑張らなくていいように調整して頑張りたい。
③ 毎回たてる目標を達成できるようにレッスンを集中する。チームの皆に足を引っ張らないように自主トレも手を抜かないようにする。	B	部活は体力もまだまだチームもまだまだだった。トレーニングメニューももう少し頑張りたい。1ヶ月の目標達成に向けて頑張りたい。

*学校生活について2学期の目標に対する達成度と3学期に改善することを書きましょう。

①教科学習・授業について

*2学期の目標の達成に向けて、各教科の達成度を自分で評価してみましょう。

A...とても努力した B...まあまあ努力した C...あまり努力できていない D...全然努力できていない

教科	達成度	冬休みや3学期に取り組むこと(具体的に！かつ自分ができること！)
国語	B	文節について冬休み勉強したいです。2学期の定期考査では、文節の問題で点数を落としてしまったので冬休みでノートなどに自主学習して取り組みたいと思います。
社会	C	2学期の社会の定期考査では、グラフの見かたや意味の問題が全然でできませんでした。なので冬休みにワークなどを振り返ったりして、できなかった問題をできるようにしたいと思います。
数学	B	2学期の数学の定期考査では、比例と反比例、文章問題の問題があまりできませんでした。冬休みにワークを振り返ったり、分からないところがあったら先生や友達に聞くなどして取り組みたいと思います。
理科	A	定期考査でなかなか自信がなかったところは、友達や先生に質問したり問題を出し合ったりしてお互いの学びになる取り組みをしたいと思います。
音楽	A	2学期の音楽の定期考査では、曲などに出てくる記号の読み方や意味の問題ができませんでした。冬休みに記号の読み方や意味を覚えられるように友達と問題を出し合ったりして取り組みたいと思います。
美術	B	人物の描き方などを先生に聞いたり、教科書を振り返ったりして2学期の定期考査でできなかった問題を冬休みのときにもできるように取り組みたいと思います。

自身の学習に対して正直に評価し、次の行動を具体的に決定することで、PDCAが回り、自己理解や課題解決能力が育つ。

中学校もアイコンを活用して授業実践を行いました。全ての教科に共通した資質・能力として4能力を捉えることで、教科の専門性が高まる中でも、アイコンを活用して授業を行っています。



(←音楽) (↑理科) での授業実践の様子

7年生 実践 英語

1 単元(題材)の目標

- (1) 放課後や週末、夏休みに行くことをインタビューし、したいことなどを聞き取ることができる。
- (2) 夏休みにしたことについて、アンケートを取ることができる。

<自己理解・自己管理能力の育成につながる工夫>

すべての活動の素地である単語学習については、年間を通して行い、毎週100個ずつオンラインでの学習サイトとGoogle Formでのテスト(10個)を行っている。単語の学習については、学年を関係なく先取りで学習できる仕組みを整えている。



単語学習をチーム戦で行っている場面
全員で協力させることができ、人間関係形成能力も高まる

7年生 実践 英語



<人間関係形成能力・社会形成能力の育成につながる工夫>

インタビュー活動に至るまでに、多くのクラスメイトと小グループやペア学習を行うことで誰とでも活動できる素地や雰囲気を作っている。

<ゆくのき学園のキャリア教育実践編>

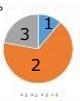
中2
8

社体技

自分の長所や短所を理解していますか。



自分の役割を理解し、集団のために貢献・活動することができますか。



自分のよさを発揮し、新しいことに挑戦できますか。



1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

【8年生の実態】

生徒数が12人と非常に少ない学級であり、自分の気持ちをアウトプットすることに苦手意識が強い学年である。今年度4月より7年生との合同授業が増えたことで、リーダーシップを取る機会が増えた。先輩としての自覚が芽生え少しずつ自信がついてきている。

基本的には9年間あまり変わらない学級メンバー構成ゆえ、お互いにある程度のことは理解している様子です。また現在8年生で、次はゆくのき学園で最高学年であるという自覚も育ってきています。

自分だけの手帳、として大切にしている気持ち及び目標を日々意識するために、以下(↓)のような取組を行っています。

PDCAサイクルを取り入れた手帳

A: 翌週の目標を前の週に書く

「フォーサイト手帳」

D: 時間割、宿題や持ち物運納等

C: 毎日の生活を4段階で評価

チェック欄に先生からのコメント

マンダラチャートは常に持ち歩くフォーサイトに入れおき、常に目標を可視化できるようになっている。

委員会の任命証などもフォーサイトに携帯させ、自分の役割を常に意識できるようにし責任感を持たせるようにしている。

7~9年生でフォーサイト手帳を活用しています。

8年生では「自分自身の生活の記録」をした上で「予定から逆算して学習計画を立て、記録」することを指導目標としています。

翌週の月曜日までにその週の目標ややることを書くことができる生徒

先週の学習時間を振り返って反省をしている様子が見られます。

キャリア・パスポートの活用

1学期:マンダラチャートを使って1年後のなりたい自分に向けて具体的な目標を立てる。

各学期:前学期の振り返りとマンダラチャートから今学期の重点的に取り組む目標を3つ選び、キャリアパスポートに記入する。

各学期の目標を立てる

氏名: _____

担任: _____

期別: _____

あなたのクラスの学習目標

あなたのキャリアパスポートの目標

あなたの目標を達成するために、今学期の目標を立てよう。

① ② ③

1年後のなりたい自分 長期目標

なりたい自分になるための中期目標

中期目標を達成するための短期目標

1年後のなりたい自分 長期目標	なりたい自分になるための中期目標	中期目標を達成するための短期目標
☆	☆	☆
☆	☆	☆
☆	☆	☆

8年生では、年度当初にマンダラチャートという思考ツールを使って「1年後のなりたい自分」という長期目標を考え、それにたどり着くための中期目標、短期目標を生徒自身が設定した。それとキャリアパスを連携させています。また定期的に目標を振り返る場面を設定しています。

指導案上でのアイコン活用

「ここがキャリア教育!」と思ったところを4つのアイコンで示す

学習指導要領とキャリア教育との関係

キャリア教育の目標

キャリア教育の実践

キャリア教育の評価

キャリア教育の課題

結果を予想して実験をする。

お互いの発表を評価する

予想をもとに討議し、発表する



←技術・家庭(技術分野)の実践です。技術とキャリア教育も親和性が高く、どの場面を切り取ってもキャリア教育と言えますが、場面ごとに4能力とのつながりを捉えることが大切です。

単元とキャリアとの関係

一人1枚の写真をそれぞれが調べた後、同じ写真を選択した生徒同士で情報交換を行う。

班に戻って、6枚の写真を(班員分)を年代順に並べ替え、その理由とともにプレゼンテーションを行い、理解を深める。



↑上は社会の実践です。4能力の視点で単元や授業を捉えることで、生徒が主体的に学ぶ仕組みを取り入れ、結果的に授業改善にもつながりました。

めあて

中: 3、4年生がボールを扱う技術が向上するように考えた運動を相手にわかりやすく伝えたり、相手の技能レベルに合わせたり柔軟に助言の工夫をする。

小: ボールを扱う技術が向上する運動に進んで取り組み、最後まで粘り強く取り組む。

問するなど、グループでコミュニケーションを取りながら運動をする。 【人間関係形成能力】	合わせたり助言の工夫している 【思・判・表】 小★ボールを扱う技術が向上する運動に進んで取り組み、最後まで粘り強く取り組んでいる。 【学びに向かう力、人間性】
まとめ 4 学習内容や学習過程を振り返る。 小学生と中学生のグループで振り返りを行う。 中学生が代表で感想を発表する。 【発問例】 ・今日の運動でどんなところが大変だったか ・今日の運動でどんなところが頑張ったか	□グループの反省では、小学生が単元のねらいに沿った振り返りができるように、中学生に発問の仕方を意識させる。 □中学生の発表では、本時のねらいに沿った振り返りが発表できるように発問をする。

こちらは小中連携授業で、3・4年生と7・8年生の合同授業の様子です。それぞれめあてを設定し、発達段階に応じた指導や支援をしています。保健体育×小中一貫×キャリア教育のよさを十分発揮しています。

保健体育科実践事例【78年ハンドボール単元とキャリア教育との関係】

単元内で学んだ技術を使って3・4年生のボールを扱う技術が向上するような練習を考える

ボールの大きさやかわらかさ、場の工夫をしたり、褒めたり、応援したりなどの励ましの声掛けをすることで3・4年生の課題解決に向けて助言を行う



【34年体づくり運動 単元とキャリア教育との関係】

質問しやすい環境を整えることで自己の課題に気づき、課題解決に向けて学習に粘り強く取り組む姿勢を身につける。中学生は34年生のやる気が伸びるような声掛けを心がける。



9年生 実践

フォーサイト手帳の活用

- 9年生:自分の生活を記録→予定の把握→予定から逆算して考える。
更に進行状況に応じて調整する。
- *7年生では→「やりとり帳」を用いて予定の把握及び教育相談
 - *8年生では→「フォーサイト手帳」を導入し、自分自身の時間の使い方を記録したうえで、計画を考えさせる。
 - *9年生では→昨年度までの経験を生かし、
 - ①各月及び1年間の予定を把握する。
 - ②その予定から逆算して計画を立てる。
 - ③うまくいかなかったところは調整する。
 この3点を中心に指導・支援してきた。

9年生では、7、8年生の指導に加えて「自分で調整する」ことを指導・支援してきました。手帳にコメントしたり、アドバイスをしたりしています。



1週間の目標や計画が丁寧に記入されている。また、1週間を振り返り、翌週の目標を立てることができている。教員もコメントを記入し、価値付けを行っています。

9年生 実践

フォーサイト手帳の活用

PLAN 計画	DO 実行
ACT 改善	CHECK 評価

①年間行事予定・月行事予定から関連する行事等を転記する。
②学期や月単位でざっくりとした計画を立てる
③週の目標やToDoを決める

①PLANで立てた計画を参考に、学習などに取り組む。
②毎日の行動や振り返りを記入する。

①CHECKの振り返りをもとに、翌週の目標や計画で大事にすることを決める。
②当初のPLANではうまくいかない箇所を調整する。

①一日の記録及び振り返りは毎日記入する。
②毎週金曜日に1週間を振り返る。

9年生 実践

数学 式の計算

めあて 展開や因数分解を生かして、くふうして計算することができる。

<p>展開</p> <p>4□既習事項を使って、課題を解決する。 □例や教科書、ヒントを参考に課題を解決する。 □解決できたら、周りに自分の考えを説明する。 ◎自分の学び方に応じて、学習形態を選択する。 ◎【自己理解・自己管理能力】</p>	<p>解を活用できないか考えさせる。 □ヒント(3段階提示)や学習形態は生徒自身で選択できるようにする。 □到達目標に基づき、自分の考えを説明させる。 ★展開や因数分解の学習を生かして、数の計算結果や式の値を工夫して求めることができる。□【思・科・表】(ワークシート)</p>
--	--

学習指導案にアイコンを明記
→教師にとって
本時・単元を通して育てたい能力を明確化

Googleスプレッドシートを使って、生徒と単元学習計画を共有している
→単元学習内容等の見直し
→より広い視点での振り返り

→右は数学、↓下は国語、↘は保健体育の実践です。各教科固有の能力ではなく、教科共通の資質・能力として4能力を意識しています。

国語科実践 魅力的な提案をしよう

- 単元目標
- ・言葉には相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。
 - ・資料や機材を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。
 - ・言葉がもつ価値を認識するなどして思いや考えを伝え合おうとする。



単元とキャリア教育との関係

グループ活動で一つのプレゼンテーションを発表することにより、見通しをもって課題に取り組む大切さを学ぶ。また、他者の意見を聞き、それを踏まえて自分の考えを再構築して伝えることにより社会にでて必要になる資質を育てる。



保健体育科 実践 球技「バレーボール」

作戦ボード&マグネットの活用

チャレンジカードの活用

試合分析カードの活用

保健体育科 実践 球技「バレーボール」

スカウトマンが試合の動きを記録

分析しながら作戦を立てる

〈小中一貫校としての取組〉

体育的行事



小中つながる選抜リレー



小中でおいかけ綱引き

儀式的行事



ほとんどの儀式的行事を一緒に



小中で「学園歌」を斉唱

文化的行事



中学生に憧れ、小学生をほほえましく見つめる学習発表会



6・9年生を送る会として実施

小中連携授業

▼ゆくのき学園で設定した、小中連携の3段階【縦のつながり・横のつながりを大切にするために】

段階1 小中教員同士で各教科の授業の内容について、話し合ったり、意見交換を行ったりする。

段階2 児童生徒の交流はないが、中学校教員が小学校の授業を行ったり、T2として補助に入ったりする。

段階3 児童生徒の交流がある授業や取組を実施する。

まずは段階1からスタートし、それぞれの専門性を伸ばす→単元のつながりを見据え段階3も実施していく。

小中の教員がつながる



中教員が小に乗り入れ指導



小中一貫で駅伝の授業



環境

▼校地内外の豊かな自然環境及び施設一体型での環境教育のよさ【ゆくのきだからできること】



昼休みに小学生と中学生が一緒になって、芝生グラウンドでサッカーしています

敷地内のビオトープにて6年生と7年生が環境について学習しています



〈 目指す児童・生徒像 × キャリア教育の基礎的・汎用的能力 〉

アンケート項目は、文部科学省作成「小学校キャリア教育の手引き（2022年3月）」、「中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023年3月）」及び「キャリア教育アンケート（町田市立南第一小学校作成）」を参考に作成した。

【作成の意図】

- 各能力に対して3項目程度を設定（合計で12項目程度になるように）
- 発達段階や系統性を重視して、低学年・中学年・高学年・中学生の4ブロックで設定
- 指導と評価の一体化の視点から、12の評価項目を「目指す児童・生徒像」の具体化した姿として校内に掲示
本紀要P6 ①を参照のこと↑

人間関係形成・ 社会形成能力



アイコン
ゆくのき
合言葉

友達と つながろう

項番	低学年（1・2年）	中学年（3・4年）	高学年（5・6年）	中学生（7・8・9年）
1	ともだちのよさを みつけることができますか。	友達のよさをみつけることができますか。	友達のよさをみつけることができますか。	友達のよさをみつけることができますか。
2	ともだちに やさしい いいかたをしていますか。	友達のために、やさしい言葉や行動をしていますか。	相手の立場にたって考え、意見を言ったり行動したりできますか。	相手の立場をに立って考え、おもしろいのある言葉や行動がとれていますか。
3	ともだちのいけんを きくことができますか。	友達の気持ちや考えを理解しようとしていますか。	自分とはちがう意見でも理解しようとしていますか。	自分の意見と他者の意見から、よりよい意見を考え出そうとしていますか。

自己理解・ 自己管理能力



アイコン
ゆくのき
合言葉

自分を 知ろう

項番	低学年（1・2年）	中学年（3・4年）	高学年（5・6年）	中学生（7・8・9年）
4	じぶんの よいところを みつけていますか。	自分のよいところをみつけていますか。	自分の長所や短所を理解していますか。	自分の長所や短所を理解していますか。
5	かかりかどうや いえでの しごとを しょうけんめい がんばっていますか。	係や当番活動に一生懸命取り組んでいますか。	自分の役割を理解し、はたすことができますか。	自分の役割を理解し、集団のために貢献・活用することができますか。
6	じぶんの いけんや かんがえを いうことができますか。	自分のやりたいことを考え、すすんで取り組むことができますか。	行事や学習、新しい取り組みに挑戦することができますか。	自分のよさを発揮し、新しいことに挑戦することができますか。

課題対応能力



アイコン
ゆくのき
合言葉

自分で 考えよう

項番	低学年（1・2年）	中学年（3・4年）	高学年（5・6年）	中学生（7・8・9年）
7	わからないことを じぶんで しらべようとしていますか。	わからないことを様々な方法で調べていますか。	自分が知りたい情報を様々な方法で調べ、必要な情報を選んでいきますか。	自分が必要な情報を見つけ出し、分析することはできますか。
8	きめたことを やろうと がんばっていますか。	決めたことをやりきることができますか。	課題に対して粘り強く最後まで取り組む事ができますか。	課題解決に向けて、計画を変更するなどの調整をしながら進めることができますか。
9	はなしあいの しかたを おぼえていますか。	相手の意見を聞いて、話し合いを進めることができますか。	相手の意見をふまえて、話し合いを進めることができますか。	自ら課題を見つけ、相手の意見を踏まえながらよりよい話し合いを進めることができますか。

キャリア プランニング能力



アイコン
ゆくのき
合言葉

夢や目標を もとう

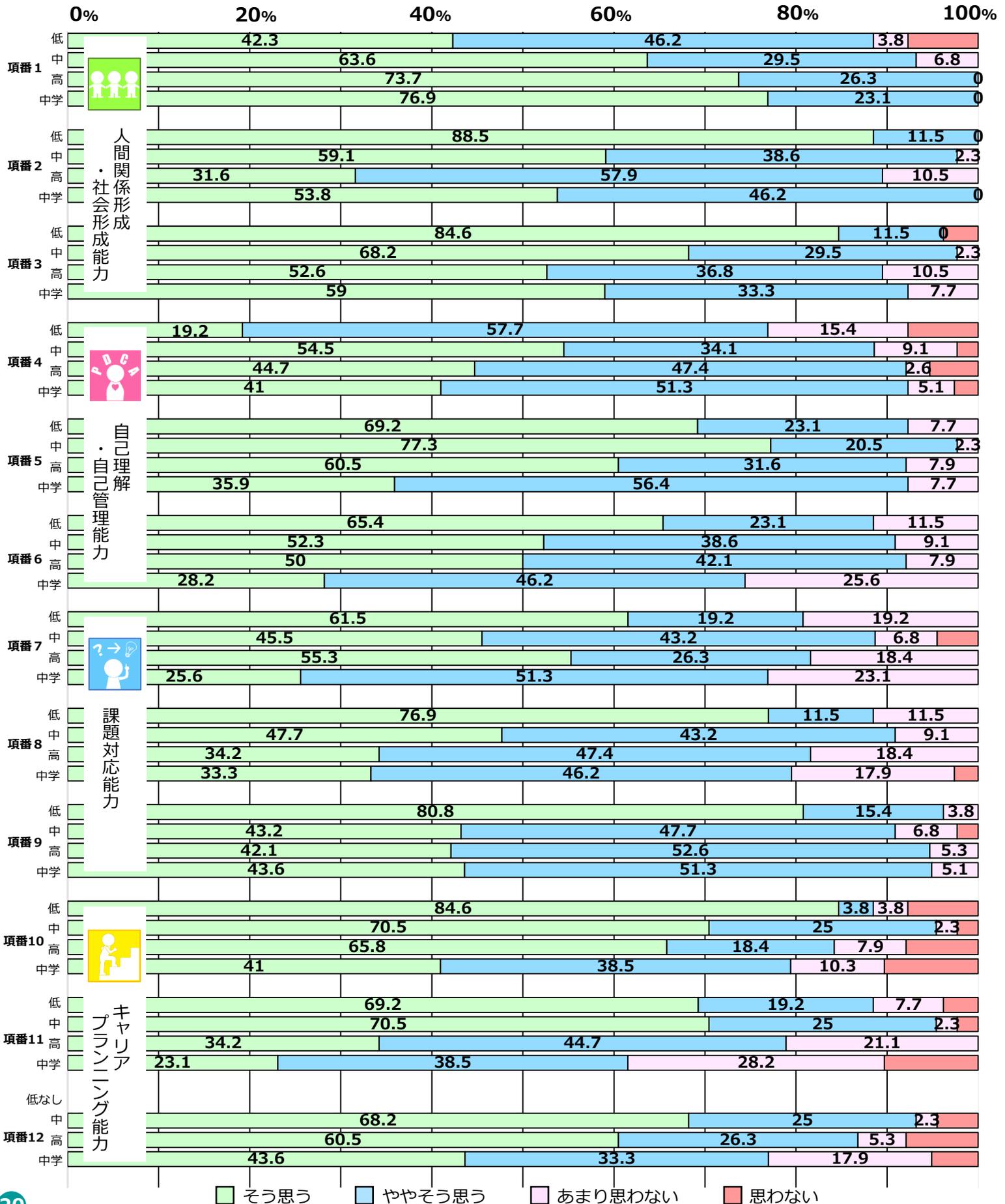
項番	低学年（1・2年）	中学年（3・4年）	高学年（5・6年）	中学生（7・8・9年）
10	しょうらい やりたいしごとが ありますか。	将来やりたい仕事がありますか。	「将来こうい風になりたい」という自分のイメージをもっていますか。	「将来こうい風になりたい」という自分のイメージをもっていますか。
11	どんな1（2）年生になりたいか かんがえていますか。	どんな3（4）年生になりたいか かんがえていますか。	1～3年後の自分の姿を考えて、学習に取り組んでいますか。	1～3年後の自分の姿を考えて、学習に取り組んでいますか。
12		なりたいたい自分になるために、がんばっていることはありますか。	なりたいたい自分になるために、がんばっていることはありますか。	なりたいたい自分になるために、がんばっていることはありますか。

〈 児童・生徒アンケート結果と分析 〉

ゆくのき学園の1～9年の児童・生徒を対象に、Googleフォームを活用してアンケートを実施した。
 実施時期：2023年7月、2024年1月、2024年5月、2024年10月の4回実施

▼2024年5月に実施した、児童・生徒アンケートの結果▼

P.19の質問項目を参照のこと



▼全体について▼

- 全体として、各項目について肯定的に回答した児童・生徒の割合が高い。
→アンケート調査を4回実施する中で、時期に応じての差が一定程度(5~10%)発生した。
学校行事の後や、年度が進行するに従って、値が上昇する項目、下降する項目に分かれた。
- 発達段階の進行に応じて、「そう思う」に回答した児童・生徒の割合が低下した。
→他者との様々な関わりを経験したり、自分のことについて深く考えたりする経験を通して、他者自体の価値付けや自分自身に対する価値付けが進んできたと推測できる。

▼4つの基礎的・汎用的能力について▼

【人間関係形成・社会形成能力；質問項番1,2,3】

- 質問項番1「**ともだちのよさをみつけることができますか(低)**」について、低→中→高→中学と発達段階が進むに当たって、「そう思う」に回答した児童・生徒の割合が増加している。
→本学園が小中一貫かつ単学級であるという特徴から、ともに過ごす時間も長く、学級のメンバーそれぞれのよさを捉えることが次第にできるようになっていると分析できる。

【自己理解・自己管理能力；質問項番4,5,6】

- 質問項番4「**じぶんのよいところをみつけていますか(低)**」について、「そう思う」と「ややそう思う」と回答した児童・生徒の割合を合計すると、学年を追うごとに増加しており、高学年や中学生では90%を超えている。
→低学年・中学年では自分のよさ、高学年・中学生では自分の長所・短所を含めて自己のよさについては肯定的に捉えている児童・生徒が増加していることが分かった。質問項番6と関連するが自己のよさを集団の中でどう発揮していくか、そのための教師の支援や価値付けを検討していく必要がある。

【課題対応能力；質問項番7,8,9】

- 質問項番8「**きめたことをやろうとがんばっていますか(低)**」について、全校では80%程度の児童・生徒が「そう思う」「ややそう思う」の回答をしている。
→この項番は学校行事の後や、定期考査の後に実施すると、数値が高くなることが分かった。自分で決めたことを頑張った場面や調整した場面について、即時的に声を掛けたり、キャリア・パスポートなどで価値付けしていくことが重要だと分かった。

【キャリアプランニング能力；質問項番10,11,12】

- 質問項番10「**しょうらいやりたいしごとがありますか(低)**」について、「そう思う」に回答した児童・生徒の割合が、学年を追うごとに減少している。
→学級活動や生活、総合的な学習の時間、特別の教科道徳を中心に、自分自身の将来をイメージしたり、職業について考えたりすることで、勤労観、職業観への理解が進み、自分自身を見つめることができたからこそ、数値が減少したと考えられる。

▼抽出児童・生徒の変容▼

①児童A（4年生）

- 質問項番5及び8において、2024年1月、2024年5月では「ややそう思う」と回答していたが2024年10月の調査では「そう思う」に回答をしていた。
→2024年1学期のキャリア・パスポートに、「頑張ったことや楽しかったこと」の項番に対して普段の係や当番活動について記載していた。それを学級担任が価値付けたことで児童Aの「自己理解・自己管理能力」が高まったと考えられる。

②生徒B（9年生）

- 質問項番4及び10において、2024年5月までの調査では「ややそう思う」に回答していたが、2024年10月の調査では「そう思う」に回答した。
→生徒Bにその理由を尋ねたところ、自分の進路選択が迫ってきたこと、中学校第2学年での職場体験やその後の進路学習で学習した内容を想起し「そう思う」に回答した、との返答を得た。全校体制でキャリアに関する研究を進めてきた成果が表出したと考えられる。

〈 成果と課題 〉

◆ 成果 ◆

▼ 教師にとって ▼

- ・「キャリア教育とはなんだろう」という疑問から出発し、教職員全員でその問いを解決するために、文部科学省や国立教育政策研究所などの定義や実践から学ぶことができた。
→キャリア教育の基礎的な理論について、全員で共通理解をしながら進めることができた。
→毎回の校内研究後の振り返りの記述でも、研究当初は「なかなかキャリア教育の全体像やイメージをつかむことができない」と記述していた教員も、回を重ねるごとに「〇〇についてわかってきた、自分の授業でも〇〇を実践してみたい」等とキャリア教育について具体的に記述するようになった。
- ・「研究だから…」と新しいことをするのではなく、これまで自分たちが指導してきたことの中に、4能力を見だし、関連付けることができた。
→アイコンを活用し子どもたちに身につけさせたい能力を明確化したり、キャリア・パスポートやスケジュール帳を活用し自己理解・自己管理能力を高め、振り返りや見通す力を向上させたりなど、教師の指導の意図や方向性を児童生徒に示し、共通理解することができた。
- ・小中で研究活動を進めていく中で、小中でそれぞれ求める児童像や生徒像、身に付けさせたい力などを学校種の枠を超えて、話し合うことができた。
→本研究を通して「目指す児童・生徒像（p.19）」を話し合っ設定できたことが大きな成果であり、その育成に向けて方策を考えて実践することができた。
- ・4能力の中でも「自己理解、自己管理能力」に視点を当てて研究を進めたことで子どもたちの「目標設定」や「その実現に向けた具体的な方策」、「振り返り」に対して、具体的な助言や支援ができるようになった。
→本研究をきっかけに、見通しや振り返りについて教師自身が意識をすることで、子どもたちへの指導につなげることができた。

▼ 児童・生徒にとって ▼

- ・児童・生徒がスケジュール手帳を活用する中で、一週間の予定を把握したり、その週を振り返ったり振り返りを基に翌週の予定を考えたりすることができるようになった。
→ブロックごとに定めた活用目標（ゴールイメージ、p.7）に近付けるようになった。
- ・4能力のアイコンを基に子ども自身で自分の活動を振り返ったり、次の目標を設定したりすることができるようになった。更に、結果に対する原因や具体的な解決策を考える児童・生徒も出てきた。
→授業のワークシートやノートにアイコンを貼付し、4能力に応じた振り返りを記入することができた。
- ・学級会で、提案理由や目的からぶれずに、企画に対する提案をすることができるようになった。
→手帳の取組やアイコンの活用など、教科横断的な取組によって上記のような力が育成できている。

▼ 保護者・地域にとって ▼

- ・キャリア・パスポートの電子化で、児童・生徒の学習に向かう様子や力を確認できるようになった。
→キャリア・パスポートやスケジュール帳を参照しながら三者面談を行うことで、それぞれの子どもができるようになったことを価値付け、共通理解することができるようになった。
- ・スケジュール手帳に応援コメントなどをしていただけた家庭も増えてきた。
→児童・生徒にとって、メッセージが励みになり、次の目標や行動への原動力となっている。
- ・地域との交流取組が多く、多くの皆様から応援していただいている。
→大戸囃子や相原保善会、敬老会、近隣の保育園や高齢者施設、稲作チーム等、多大な支援をいただいている。

◆課題◆

▼学校組織として▼

・研究指定校として2年間研究に取り組んだ成果を、学校組織として、次年度以降どのような形で引き継いでいけるかが課題である。

→アイコンやキャリア・パスポート、スケジュール手帳といった具体的な取組を、更にブラッシュアップしていくことに加え、目指す児童・生徒像や児童・生徒への支援等、児童・生徒との向き合い方を教職員で共通理解し、指導や支援に当たっていく。

・地域との連携は児童・生徒にとっても体験的な学習となり、非常に有意義なものとなった。更に、1年間の限られた授業時数の中で、活動時間を確保するための工夫が必要となる。

→主に生活科や総合的な学習の時間で、9年間の系統性を踏まえねらいや目的を明確化する。また、小中ともにカリキュラム・マネジメントの視点を持ち、他教科との関連を児童・生徒に意識させるようにする。

▼個別の取組について▼

・4能力のアイコンの活用について、研究授業の場に加えて、日常の授業で活用した場面も交流できると更によかった。

→日常的に授業を公開できる雰囲気に加え、毎回の校内研究の際に疑問点等を確認していきたい。

・キャリア・パスポートを電子化することで、日常的に見返したり振り返ったりする機会を確保するのが難しいという意見もあった。

→電子化に関わらず、定期的に目標を意識する時間を確保することが重要であると感じた。

・スケジュール帳をあまり活用できていない児童・生徒への支援方法を検討していく必要がある。

→スケジュール帳を活用するメリットや具体的な記入方法等を共通理解して支援していきたい。



【ゆくのき学園の研究協議会のよさ】

グループで分担し、児童・生徒の発言や行動等を逐一記録し、研究協議会で活用する。

→児童・生徒一人一人を見取り、発言や行動の真意、どれだけ目標にせまれていたか、4能力を活用できていたか協議することができた。

おわりに

町田市立小中一貫ゆくのき学園 大戸小学校 副校長 番田 健治
武蔵岡中学校 副校長 中村 万寿生

本学園の研究推進にあたり、上越教育大学教授 山田智之先生をはじめ、東京音楽大学客員教授 関本恵一先生、町田市立南第一小学校の先生方、町田市教育委員会の皆様から多くのご指導、ご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

この研究を進めることは、簡単なことではありませんでした。キャリア教育の定義といった理論的な部分から教職員全員で共通理解したり、小中一貫校かつ単学級という本学園の特徴を生かしたりしながら、キャリア教育の実践についても検討しました。それはまさしく、全員で一歩ずつ進んできた研究となったはずです。また研究を進める中で、自己の役割を自覚したり、生き生きと仲間と学んだりする子どもたちの姿を見て、本学園の研究の方向性は間違っていないと確信しました。

一方で、本学園の研究の成果は、本当の意味では現時点で確認ができません。それは本学園を巣立つ子どもたちの将来の姿を見たときに、本当の成果が分かるものと考えています。子どもたちのよりよい今と未来を目指し、これからも教職員一丸となって、研鑽に励んでまいります。